

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上については、単元計画の活用を進め、生徒が見直しをもつた学習ができるよう取り組みを進めることができた。また、「一人一タブレット端末の利用も昨年度と比較して活用する回数が増えた。しかし、まだ十分ではないので、今後も取り組みを推進する必要がある。また、家庭学習習慣の定着に課題があり、生徒の学びを推進取り組みが必要である。</p> <p>・今年度は、夢や目標をもたせる取り組みを増やすことができた。しかし、十分な成果が表れていないので、さらに取組を進めていき、学習に結びつけることが必要である。</p> <p>・生徒指導の課題やいじめ問題の対応に、各学年や部会、SCやSSWと連携し、「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。また、卒業式の生徒司会など、積極的に生徒の出番・役割・承認の場を設定することで、生徒の自己肯定感を高める取組を行い、発達支持的生徒指導を進めることができた。しかし、規範意識の低さが課題であり、ルールやきまりについて考える取組や、人間関係作りや人との接し方を学習などをさらに進めるとともに、様々な場面で出番・役割・承認の場面を設定と個別の指導・支援を丁寧に行っていくことが必要である。</p>

2 学校教育目標	『信頼される人になる』
----------	-------------

3 本年度の重点目標	<p>① 知：子どもが「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じながら学ぶ場面を増やし、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。</p> <p>② 徳：開発的生徒指導（発達支持的生徒指導）を全職員で取り組むことで、子どもの豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させる。</p> <p>③ 体：健康教育・安全教育を行う。また、教育相談体制を充実させる。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践により、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開、ICTの活用を行い、振り返りで、4つの感の特に、「充実感」を感じることを増やす。	・生徒アンケートで、「単元のゴールを意識して、一時間毎の授業に意欲的に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合80%以上。 ・生徒アンケートで、「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合75%以上。	・生徒が目標をもって授業に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示し、そのゴールに向けて1時間の授業のまとめや振り返りの充実を図り、自己の学習状況の把握を促す。 ・授業の振り返りや生徒の実態に応じた家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「感謝と思いやりの気持ちを育てる指導を行っている」の達成率をそれぞれ80%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	・道徳教育推進リーダー ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施する。生徒指導部会と教育相談部会と連携し、SCやSSW、SSF、外部機関などとの連携強化を図る。 ・キャリア・パスポートを活用し、将来への見通しをもたせるとともに、生徒の良さを積極的に認める場をつくり自己肯定感を高める。 ・学校教育活動の中で、生徒に役割・出番・承認の場を増やす。 ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考える場をつくり、見直しをもたせる。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。 ・保健だよりを発行する。 ・学期に1回、保健部の生徒たちで「給食だより」を発行させる。	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「交通安全や防災を意識して生活している」生徒80%以上	・学校安全計画に基づき、各教科、領域等による安全教育を計画的に推進する。 ・月に1回、交通安全及び防災に関する放送を行う。	・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・校時の工夫・変更	・管理職
	○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	○校務システムを毎日2回チェックし、はなまる連絡帳を確認する職員100%	・業務上の資料配布や事務的な連絡事項をシステム上で行う。 ・生徒の欠席連絡等にはなまる連絡帳Appを活用する。	・管理職 ・教務主任
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の運営体制の充実と特別な支援を必要とする生徒への支援の充実	○「特別な支援を必要とする生徒について、情報共有を行うことができています」と答えた職員100%	・特別支援教育部会を隔週で行い、支援を必要とする生徒の情報共有を行い、支援の充実を図る。	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はそぐわない面もあるので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。	・教育相談担当 ・養護教諭
○地域に開かれた学校づくり	○地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる75%以上を目指す。	・育友会をはじめ、地域と連携した活動を行う。 ・いきいき学ぶからつっ子育成事業を活用し、地域人材等を活用した教育を推進する。	・管理職 ・学年主任 ・進路指導主事 ・全職員

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------